

殺ダニ剤の登録一覧表

(2010年用)

JA全農山形 生産資材部
2009年12月作成

薬剤名	ナミハダニ			リンゴハダニ			感受性の低下実績	オウトウハダニ	チャノホコリダニ	サビダニ	ポルドー液・混用	りんご	おうとう	もも	ぶどう	なし	きゅうり	トマト	なす	すいか	いちご	メロン	かき	菊	ばら	特性及び注意事項	
	卵	幼虫	成虫	卵	幼虫	成虫																					
ダニサラバフロアブル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	無し	(○)	×	×	×	1,000	1,000	1,000	—	1,000	—	—	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	<ul style="list-style-type: none"> ポルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上開ける。 ハダニの全ての生育ステージに対して効果を示し、特に幼虫から若虫に対して効果が高い。 天敵その他有用動物に対して影響が少ない。 アリエッティC水和剤、カルシウム剤と混用する場合、ダニサラバフロアブルを先に溶かす。 花き類、観葉植物で登録あり。 スターマイトフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためダニサラバフロアブルは使用しない。 	
スターマイトフロアブル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	無し	(○)	(○)	×	×	2,000	2,000	2,000	—	2,000	—	—	2,000	2,000	2,000	—	—	2,000	—	<ul style="list-style-type: none"> ダニサラバフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためスターマイトフロアブルは使用しない。 ポルドー液との混用及び14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。 ハダニの全生育ステージ(卵～成虫まで)に対して効果が高い。 有袋栽培の洋なしに使用する場合、果実の葉斑が目立つおそれがあるので、袋かけ前の散布はしない。 ペフラン液剤、アリエッティC水和剤と混用する場合、スターマイトフロアブルを先に溶かす。 有用昆虫(ミツバチ、マルハナバチ、マメコバチ)及びカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。 	
ダニゲッターフロアブル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	無し	(○)	(○)	(○)	×	2,000	2,000	—	—	2,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ハダニ類の全ステージに効果がありますが、特に卵・幼虫に対する効果が高く、残効性が長い。 ポルドー液との同時散布及び前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので避ける。 新梢伸長期の日本なし(二十世紀を除く)に使用する場合は、以下の事項に注意する。 (1) 豊水、新高、長十郎には新葉に葉害を生じる恐れがあるので使用しない。 (2) 有機リン剤との同時散布及び10日以内の近接散布は新葉に葉害を生じる恐れがあるので避ける。 おうとうに使用する場合は、新梢伸長期に葉害を生じることがあるので、葉の硬化を持って使用する。 キャベツ、はくさい、こまつな、ねぎ、ばらに対して葉害を生ずる恐れがあるので、付近にある場合かからないように注意すること。 開花期の水稻に本剤がかかった場合、不稔などの葉害を生じる場合があるのでかからないように注意する。
パロックフロアブル	◎	◎	×	◎	◎	×	有り (ナミダニ)	(○)	—	(○)	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	<ul style="list-style-type: none"> 成虫に対する活性はないが、卵・幼虫・若虫の各ステージに活性が高く長い残効がある。 ポルドー液散布14日前まで使用し、ポルドー液散布後は使用しない。 花き類、観葉植物で登録あり。 	
マイトコーネフロアブル	◎	◎	◎	○	◎	◎	有り	(○)	(○)	○	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	<ul style="list-style-type: none"> ポルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上開ける。 ミツバチ・蚕およびカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。 小粒核果類、ミニトマトにも登録あり。 	
コロマイト水和剤	◎	◎	◎	◎	◎	◎	無し	(○)	(○)	(○)	○	2,000	—	—	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	—	<ul style="list-style-type: none"> 蚕に長期毒性があるので、桑葉にかからないように注意すること。 乳剤は、葉害防止のため安全性が確認された薬剤のみ混用する。 乳剤は、汎用性展着剤以外および葉面散布肥料とは混用しない。 乳剤はトマトのヨシヅナ類、トマサビダニ、ハモグリバエ類に登録。 水和剤は食用ぎく(2,000倍)にも登録あり。 	
コロマイト乳剤	◎	◎	◎	◎	◎	◎	無し	(○)	(○)	(○)	○	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,500	1,500	1,000	1,000	1,000	—	1,500	—	<ul style="list-style-type: none"> 乳剤はトマトのヨシヅナ類、トマサビダニ、ハモグリバエ類に登録。 水和剤は食用ぎく(2,000倍)にも登録あり。 	
コテツフロアブル	◎	◎	◎	×	×	×	無し	(○)	(○)	(○)	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	—	2,000	2,000	2,000	<ul style="list-style-type: none"> 蚕毒性があるので、桑園周辺では飛散しないように注意する。 ハモグリバエ・ヨシヅナ・ナスの幼苗期は葉害の恐れがあるので使用不可。 オクラではオオタバコガで登録あり。 スイカではミナミキイロアザミウマで登録あり。 花き類・観葉植物、ミニトマトにも登録あり。 	
オサダン水和剤	△	◎	◎	△	◎	◎	有り	—	(○)	(○)	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	<ul style="list-style-type: none"> ポルドー液散布後は30日以上開ける。 本剤散布後は、10日間はポルドー液を散布しない。 水和剤はセルリ、柿、カーネーションにも登録あり。 	
オサダンフロアブル	△	◎	◎	△	◎	◎	有り	—	(○)	(○)	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	<ul style="list-style-type: none"> ポルドー液散布後は30日以上開ける。 本剤散布後は、10日間はポルドー液を散布しない。 水和剤はセルリ、柿、カーネーションにも登録あり。 	
サンマイト水和剤	○	◎	◎	○	◎	◎	有り	(○)	(○)	○	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	—	—	—	—	—	1,000	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) ダニ・ヨシヅナは交叉抵抗を示すので連用は避ける。 フロアブル剤は、トマトのヨシヅナ類とハモグリバエの登録となる。 他に水和剤はすももに、フロアブル剤は枝豆に登録あり。 	
サンマイトフロアブル	○	◎	◎	○	◎	◎	有り	—	(○)	○	○	—	—	—	—	—	1,000	1,500	—	1,000	1,000	1,000	—	1,000	—	<ul style="list-style-type: none"> 原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) サンマイト水和剤は交叉抵抗を示すので連用は避ける。 	
ダニトロンフロアブル	○	◎	◎	○	◎	◎	有り	—	(○)	(○)	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	—	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	<ul style="list-style-type: none"> 原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) サンマイト水和剤は交叉抵抗を示すので連用は避ける。 	
カネマイトフロアブル	○	◎	◎	○	◎	◎	無し	(○)	○	○	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	—	<ul style="list-style-type: none"> アリエッティCと混用する場合はカネイトを先に希釈し混用する。 ポルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上開ける。 初刈り、すもも、うり類(漬物用)で登録あり。 	

※本資料作成以降に農薬の適用内容が変更になる場合もあるため、使用する際にはラベルの登録内容を再度ご確認ください。ご指導いただきますようお願いいたします。

※各薬剤共、ポルドー液と混用して使用すると効果が低下したり、残効期間が短くなるようなので留意する。

※殺ダニ剤は抵抗性回避のため各薬剤共、年1回の使用とする。